慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	追悼 鶴木眞先生 : 鶴木眞先生という個性
Sub Title	
Author	山本, 信人(Yamamoto, Nobuto)
Publisher	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
Publication year	2016
Jtitle	メディア・コミュニケーション : 慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要 (Keio media communications research). No.66 (2016. 3) ,p.123- 124
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20160300-0123

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

追悼　鶴木 眞 先生

鶴木眞先生という個性

山本信人

2015 年 7 月 15 日，鶴木眞先生が逝去された。鶴木先生の訃報に接した際，過去数年来体調を煩っていらっしゃったので，とうとうその時がきたかという不思議な感覚があった。強烈な個性をもつ研究者が一人世を去られたという寂しさがあった。

鶴木先生は 1942 年 11 月 2 日，東京にお生まれになった。武蔵中学校・高等学校を卒業後，慶應義塾大学法学部政治学科に進学。1965 年に同法学部を卒業とともに，大学院法学研究科へ進学。67 年からは法学部助手となられ，70 年に専任講師，73 年に助教授，79 年に教授と昇進なさった。1992 年に慶應義塾大学から東京大学新聞研究所（同年社会情報研究所と改称）教授に転職なさるまで，25 年間慶應義塾大学法学部で教鞭を執られた。2002 年には，『情報政治学』（三嶺書房）にて慶應義塾大学から法学博士号を取得している。

東京大学在職中の 2002 年から鶴木先生は十文字学園女子大学副学長を兼任された。2003 年に東京大学を定年で退かれると東京大学名誉教授となり，十文字学園女子大学・同短期大学学長となられ，同職を 2007 年まで務められた。そして 2007 年から 13 年は松山大学人文学部教授となり，東京と松山を往復する生活を送られていた。

この間，鶴木先生は各種の公的団体での要職をこなされた。2003 年から 05 年の 2 年間は日本マス・コミュニケーション学会会長，1998 年には日本警察政策学会の創設に携わり爾来理事，そして同学会内にテロ対策部会を創設，2002 年には国際医療予防学会の常任顧問，財団法人村井順記念奨学財団理事などを歴任された。

鶴木先生の研究は時代を先取りしていた。鶴木先生の研究関心は，マイノリティーの政治意識や，サイバーテロ，テロリズムと情報政策，社会安全と情報政策であった。中東安全保障，テロ対策，国際コミュニケーションの研究分野では，鶴木先生はまさに第一人者であった。こうした鶴木先生の研究関心は，その著書，編著書，翻訳書に明確に反映されている。単著には，『日系アメリカ人』（講談社現代新書，1976 年），『パレスチナとアラブ人』（慶應通信，1981 年），『パレスチナ問題入門』（ティビーエス・ブリタニカ，1982 年），『情報政治学』（三嶺書房，2002 年）がある。編著書としては，『真実のイスラエル』（同友館，1993 年），『はじめて学ぶ社会情報論』（三嶺書房，1995 年），『メディアと情報のマトリックス』（弘文堂，1995 年），『客観報道―もう一つのジャーナリズム論』（成文堂，1999 年），『コミュニケーションの政治学』（慶應義塾大学出版会，2003 年）がある。

鶴木先生は，メディア・コミュニケーション研究所の前身である新聞研究所の修了生でもある。1962 年から 65 年の 3 年間，鶴木先生は新聞研究所で，法学部教授でもあられた生田正輝先生などに師事した。法学部教授であった 1985 年から 91 年度は，新聞研究所の研究会で「基礎理論」をご担当になられた。したがって，鶴木先生は法学部と新聞研究所の 2 か所で研究会をご担当になり，後進の教育に携わったことになる。慶應義塾大学法学部教授の大石裕氏，法政大学教授の藤田真文氏など，日本マス・コミュニケーション学会を支え，学問的な支柱となっている研究者は枚挙にいとまない。また東京大学での教え子には，東京大学准教授の池内恵氏や日本大学教授の福田充氏など，中東およびイスラーム研

究者やテロリズム研究者がいる。

鶴木先生とのぼくとの個人的な関係は短い。思い出といえば，2006年6月に関西大学で開催された日本マス・コミュニケーション学会春季大会がある。シンポジウムでナショナリズムとイスラームに関するぼくの拙い報告に対して，いてもたってもいられなくなったのであろう鶴木先生はフロアーから批判的かつ建設的なコメントをしてくださった。また，2011年10月にぼくがメディア・コミュニケーション研究所の所長に就任してからというもの，研究所の行事でお目にかかるたびに鶴木先生から声をかけてくださった。研究所の国際化という無謀な目標を掲げた門外漢の所長をとにかく励ましてくださる，鶴木先生の繊細なお心遣いにはいつも恐縮するばかりであった。鶴木先生の後進に対する熱い指導と気遣いを思い出す。

じつは鶴木先生とはひょんなつながりがある。ぼくの恩師である松本三郎先生のご長女が，政治学科で鶴木研究会に所属していた。豪快な鶴木先生と大らかな松本先生とは好対照であり，端からはそれほど親密にはみえなかったであろうが，じつはそんなことはなかった。いまから思い起こすと，そのような恩師をとおしての人間関係もあって，鶴木先生はぼくのことを気にかけてくださったのであろう。

この追悼文を記しながら，鶴木先生の最後の学術論文となった「マスメディアと国際テロリズムの危機管理」（『法学研究』86巻7号，2013年7月，191－215頁）を改めて読み返してみた。病魔と闘いながら渾身の思いを込めて執筆された本論文は，まさに鶴木先生の研究を集大成した内容である。本論文は，鶴木先生の恩師であられた生田正輝先生の追悼記念論文集に寄稿されたものである。ここに義理と人情に溢れる鶴木先生の生きざまが凝縮されている。

鶴木先生からの直接の指導を受けることはかなわなくなったが，メディア・コミュニケーション研究所がジャーナリズムとメディア研究の本質を見失わずに，国際化の道をも突き進んでいく姿を，鶴木先生は見守り続けてくださると信じている。鶴木先生のご冥福をお祈りします。

山本信人（メディア・コミュニケーション研究所長、法学部教授）